

CHAO LETTER

ジャパ・ベトナム報告 No.4

チャレンジ 2021 ! 困難に立ち向かう !

発行者：ジャパ・ベトナム事務局

発行日：2021 年 12 月 21 日

クリスマス & 新年おめでとうございます

NOVA et VETERA 新と旧

安藤 勇

有名なラテン語の人の生活の様式の表現(nova et vetera)が年末の時期をよく表していると考えます。12月になると日本では「忘年会」をやる習慣があり、去る年の自分にとってはありがたくなかった出来事を忘れようという意味も含まれているでしょう。それに対して、ラテン語の表現の意味合いが異なっているわけです。と言うのは、去る年の出来事を忘れようというより、それを思い出して新しい年には生かしてみようという発想です。

Vetera: 例えば、目だった旧いできごとと言えばコロナパンデミックのために、今までの仕事を失い、行動が制限されて自由も失ってしまったこと。去った年の嫌な出来事、つらい現像をきっと誰でも忘れたいものでしょう。そして、私たちは海外旅行ができなくなったために、毎年行っていたベトナムプロジェクトのツアーも、去年は仕方なく実現することが不可能になりました、等です。

Nova: もう直ぐ新しい年がやってきます。そこで、日本だけを考えるならば、コロナウイルスがきっとほとんど消えて、運がよければ、普段通り故郷で親戚と楽しいお正月を過ごせるかもしれません。その上、このシナリオの可能性があるとすれば、一オミクロンの行方に寄りますが、昔と同じように自由に楽しい新年を迎えて、祝うことができるでしょう。そこで、これからの生活に希望を取り戻せるし、今まで出来なかった長期計画も立てられます。そして、毎年ジャパ・ベトナムのメンバーが行っていたベトナムツアーを復活して、ベトナムの各プロジェクトを訪問し、その関係者と久しぶりに対面できるでしょう。

私が個人的に思うには、過去の旧い出来事を忘れるべきものではありません。却って、旧い経験が失敗したとしても、学べることは多いと確信しています。コロナウイルスの大流行の陰でいくらか自分の人生が変わり、不思議に神様に対する信頼が強くなりました。” Nova et Vetera” の旧い経験を思い起こして、これから起こるだろう出来事を迎えたい。



今年の活動とベトナムの現状

五井 邦宏

今年2021年は、2020年に続いて、日本から支援先の現地を訪ねて、プロジェクトを行っておられる皆さんのお話をお聞きし、直接支援をお渡しすることができませんでした。

また、ベトナム国内でも、プロジェクトの支援を行っているグループのメンバーの皆さんも、現地での活動が困難な状況にある地域が沢山あると聞いていました。

そこで、現地の支援者と連絡を取りながら、ジャパ・ベトナムのメンバーで緊急支援を含めた活動方針などの議論も続けながら、活動して来ました。またミーティングとホーチミンで活動している支部のメンバー皆さんの協力を得て、ベトナムの支援先に確実に支援金をお渡しすることができました。またプロジェクトを行っているベトナム各地で活動する支援者の皆様と、メールやリモート・オンラインなどを活用して情報を共有して、役立つ支援になるように努めて来ました。

なお、困難な状況の中、現地で活動されている様子がリモートやメールなどを通して報告されて来ているので、その一部は Chao Letter の紙面でも紹介して行く予定です。

支援先からのお礼の報告を一つ：『Ngon Lanh 村の少数民族の為にきれいな水』プロジェクト（3年間）が完了したことで、誰もが日常生活のニーズに応えるためにきれいな水システムを使用できるようになった。JAPA ベトナムの支援には、皆が幸せでとても感謝しています。この小さな子供たちの未来はより明るくなり、彼らの顔には喜びがはっきりと表れています。ジャパ・ベトナムの皆様にも心より感謝申し上げます。 Thang Cong より。



パンデミックに思うこと

島村 晶子

パンデミックは私たちに、人と人との繋がりのなかでもたらされる様々な時間が、どんなに大切なものであったかを再認識させた。家族が入院すれば、毎日顔を見に行き行って励ます。友人のお祝いごとの宴で共に喜び、不幸があれば駆け付ける。仲間でどう楽しもうかと旅の計画を練る。高齢の両親や祖父母を、故郷や施設に訪ねる・・・パンデミックにより失われた、あるいはお預けになってしまった時間である。

HCM 市の HIV 感染者のいる家庭にも、そんな時間があつた。雨季にはすぐに床が水浸しになる家で暮らす子どもたちも、日曜日には清潔な居場所に集まり、食べて、遊び、学んだ。旅行などしたこともない家族が、貸し切りバスで夏の行楽地に向かった。患者の辛い症状を和らげたい家族は、無料の診療所で薬と温かいアドバイスをもらった。

パンデミックはさらに、多くの人がずっと以前から、どんなに薄く脆い基盤の上で暮らしていたのかという現実も再認識させた。外出制限で少し仕事を休んだだけで、食べるものにも事欠くようなその日暮しの人々。政府のお達しで無料診療所が閉鎖されれば、薬を得るすべがない人々。彼らは真っ先にダメージを受け、立ち直るのは遅い、というより立ち直ることができるのだろうか。

このかつてない事態のなか、ジャパ・ベトナムは情報収集に苦労しながら、支援のあり方を探り続けた。信頼できる地域のリーダーの申請をよく吟味し、支援を決めるという基本姿勢はあるものの、刻々と状況が変わるなかで、その時々への対応や緊急支援の必要性などについて、議論は繰り返され、今も続いている。

いまだ収束が見えないこのパンデミックに際し、ジャパ・ベトナムは今後の活動をどう構築していくのか。私は、まだなかなか会いに行けそうにない現地の人たちと、どう関わっていくのか。クリスマスの前に、支援される人々にも支援する側にも、希望の光が見出せることを祈りたい。

ホーチミン市がロックダウンを終えてずいぶんと時間が経った。初めは、恐る恐るの様子だった人の動きも、この頃ではかなり増えてきている気がする。飲食店での食事もできるようになった。しかし、客の数はさほど多いとも思えない。マッサージ嬢たちも、ちらりほらりと戻ってきたが、店の明かりを暗くして、客引きも遠慮がちだ。長い営業制限によって、耐えられずに店舗を明け渡さざるを得なくなった店も多く、借りて募集の張り紙が張られた店舗がそこここに見立つ。

ホーチミン市は、コロナとの共生に踏み切ったが、いまだに日に千数百の陽性患者が発生し、数十人の死者が出ている。8月の最盛時の頃の日には6千人の新規患者よりは少ないが、7月時点と大して変わらない。7月には町中そこかしこが、赤と白の斑の紐で封鎖されていたのに、今はまったく何もない。その戸惑いがないわけではあるまい。だから、ロックダウンがまたあるのではないかという風評が流れたり、小学校の対面授業再開に多数の父兄が反対したりするという現象も起きる。ホーチミンから脱出して故郷に帰った人々も、多くはホーチミンに帰りたくないと言っているという新聞記事もあった。増加期の1日千数百と減少期の1日千数百は違うと思いつつ、忍び寄る見えない敵と生活の不安に怯えた日々の記憶は容易に人々の頭から消えないのだろう。

わたしは、この間ホーチミンのある大学で日本語の講師をしていた。6月からはオンライン授業で、実際に会ったことのない生徒を相手の授業をしてきた。実際に会ったことがないだけでなく、カメラをつけてくれないので、画面を通じてさえ顔を見ていない生徒が多い。見えない向こうでは、教室では考えられない怠惰な状況も展開されているだろうことは想像に難くない。オンライン授業による学力の低下を心配する人も多いし、実際にそうした調査報告も出ているようだ。しかし、悪いことだけでもない気もする。教室では、前に陣取って熱心な生徒と、なるべく後ろのしかも壁に張り付いてカメレオン化する生徒と別れるが、オンラインではその距離感がなくなる。これはいいことなのではといったら、他の先生から、生徒はそれを望みますかと言われてしまった。

オンラインは、研修の分野も変えたと思う。コロナによってオンラインが当然となったお蔭で、ホーチミンだけでなくベトナムの他の地域の先生と勉強会ができることがふつうになった。日本で開かれる研究会にさえも参加できるようになった。ポストコロナで、こうしたことが以前の対面のみに戻っていくのか、それはそれで残念な気がする。なんか融合した形ができないものだろうか。



遠慮がちなクリスマス
サイゴンセンター

何か出来ないか！ どうにかならないか！ どうするか！ 平井 裕

ジャパベトナムの活動は、一昨年から新しい試みとして、現地のメンバー加えた活動をスタートしているが、その一つが Ben Tre の小学校への浄水装置の設置であった。このプロジェクトは現地の要請に基づいたものではあったが、設置をメンバーで行うことが今までと異なった。アフターコロナという言葉で将来を語ることを余儀なくされている今、元に戻すのではなく先の将来を見通した新しい展開を見つけて進めることが必要だろう。例えば、ベトナムを先進農業国にするとか、ベトナムの豊富な天然資源を掘り起こして、長期的に安定な企業を起こす。その時に得意技術になりつつあるIoTとの融合を計り、またDXやAIなども身近なビジネスに取り込むことで、他国のビジネスと競合し、また連携も取ることが出来るであろう。

ジャパ・ベトナムの活動もそのような視点での支援が必要と考える。人材育成の観点で必須な教育を、国家のレベルでの先行投資と考えて、基盤を支える技術・文化の教育に注力することと並行して、生涯教育の観点から個人の個性に合わせた自己実現をサポートすることが求められている。

私は2015年にホーチミンの私立大学の教育改革のアドバイザーとしてベトナム人と一緒に働き始め、ものづくりの重要性を鑑みて、2017年にホーチミンにベトナム人と一緒に会社を作り、10人弱の社員を抱えてプリント（捺染）のビジネスをやってきた。コロナ禍の中で、生き残ることは大変だったが、何とか切り抜けてきた。

1年半緊急事態が続き、7～9月にわたるホーチミンのロックダウンは、人々の暮らしを全く変貌させてしまった。道端の露店も含めて、物売りビジネス、娯楽・観光関係も完全ストップし、学校も閉鎖になった。ロックダウン解除後の10月から少しずつ、人と物の動きが再開し始めているが、先の見通しが立っていない状況は以前と変わらない。この新しい動きで、また感染者も増える傾向も見られ、また不安が高まっている。再開した企業活動は、工場は従業員が故郷に帰ってしまっていることで、フル稼働はしばらく出来ず、ベトナム全体の経済活動の落ち込みは大きい。ベトナムのビジネスにおける中小企業の割合は大変大きく、今回の緊急事態とロックダウンによって、手元資金の不足から今再開が難しいと思われる。ものづくりのビジネスを作り、その地力を付けることが、ベトナムの今後の課題であろう。今までにも増して、日本がそしてジャパ・ベトナムが貢献できる点はここにもあると考える。

会計報告

小野 浩美

2021年1月1日～2021年12月13日 寄付者のお名前（敬称略、順不同）

生田光輝・英子 田頭信博 関口順 石川和男・直美 森絵里咲 辻村寛行 宿澤恵子
佐竹道子 モンタナ第二修道会 湯下博之 柏村忠志 駒込直美 櫻井健吾 須田俊子
小池美恵子 田野実 藤井訓子 大泉廣 武井弘光 高橋正章 橋本直樹 倉澤伸子
平林生子 桜井孝彦 林裕美子 松尾民博 マリアの御心会 茂原共同体 下田猛
圓山節子 Nguyen Thi Phuong Uyen 羅修子 Juan Haidar 武永蘭 有吉和子
上智カトリック・イエズス会 井阪和夫 イエズス会社会司牧センター 原茂 逸見裕一
グエン・ティ・マイ 小坂一代 Nguyen T.K. Ha 渡辺典子 山田弘 鈴木武彦
グエン・ティ・ゴック Nguyen Thi Ngai（姫路ロザリオ会） N. Thanh Vu
野本桂子 ラオスカトリック共同体 関口順 澤田紀子 浅野鉄也 武市英雄 渡辺直樹
平井裕 佐藤みどり 村上直樹・道子 中野孝文 阿部節子 菅野洋子 青沼酉子 岸秀雄
今井久子 樋口禮治 Ha Thi Liet Oanh 守口恵子 櫻井優子 鳥井恵子 ジャパナム
三輪直子 JVC-TOKYO オキ 柳下修 原章子 斎藤彰 野本桂子 玉木邦江
吉岡美智子 藤本エイ子 匿名者

沢山の方々からご寄付をいただき、ありがとうございました。

会計報告（2021年9月7日～2021年12月13日）

		日本（円） ベトナム（KVND）		日本（円） ベトナム（KVND）	
収入	寄付金	380,021	24,662	前期繰越金	737,103 83,808
	助成金	0	0	当期収支	380,021 24,662
支出	支援金	0	0	次期繰越金	1,117,124 108,470
	活動費	0	0		

来年もよろしくお願い申し上げます。

（ご支援先） 郵便振替 00100-8-118761 JAPA VIETNAM
銀行振込 三菱UFJ銀行 店番号 315 普通預金 3544236
JAPA VIETNAM 代表 安藤勇